大好きな　ときたっこのみなさんへ　メッセージ

１学期に学んだことは、何ですか。
できるようになったことは何ですか。
今日は終業式です。皆さんの１学期の様子が通知表に書かれています。お家の人と一緒に振り返ってみてください。

さて、夏休み前に皆さんに読んでもらいたい作文があります。右にある「おとうさんにもらったやさしいうそ」という小学校１年生が書いた作文です。

この作文は第 12 回日本語大賞文部科学大臣賞受賞しました。テーマは「心にひびいた言葉」です。読売新聞で読んだ人もいるかもしれません。

まずは、読んでみてください。

さて、みなさんは何を感じて、お家の人と何をお話しするのでしょう。

「うそ」をついたらいけません。「うそ」で人はだませても、自分はだませません。

確かにそうです。みなさんもそう教えられていると思います。

でも、こうきさんのおとうさんは、大きな愛で、おかあさんと元気にすごすための
「やさしいうそ」をつきました。

私はこの作文を読んだとき、涙があふれてきました。

自分の命は、かけがえのない命
そして、ひとりのものではない命
ひとつしかない命
だから、自分のため、大切な誰かのために
せいいっぱい　生きる

夏休みです
何か不安なこと心配なことがあったら
お友達・家族・先生が、そばにいます。
まずは、誰かにお話ししてごらん。
みなさんは決してひとりではありません。

２学期　元気な笑顔でお会いしましょう。

ぼくのこころにひびいたことばは、「おとうさんはちょっとおいところでしごとをすることになったから、おかあさんとげんきにすごしてね。」です。そのときぼくは二さいでした。とても小さかったのでちょくせついわれたのはおぼえていませんが、いってくれたときのどうががおかあさんのスマホにいまでものこっているので、すきなときにきくことができます。

「おとうさんにもらったやさしいうそ」

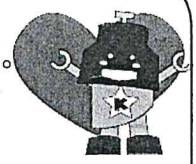
佐藤亘紀（こうき）（茨城県、１年）

このふつうにおもえることばがぼくのこころにひびいたりゆうは、じつはこれがおとうさんがついたうそだったからです。このことばの一しゅうかんごに、おとうさんはぼっけつびょうでしんでしまいました。そして、このことばをおとうさんがのこしたのはびょうきがわかってにゅういんした日でした。おとうさんは、あえないあいだにぼくがかなしまないように、わざとうそをつきました。うそはふつうよくないけど、これは、おとうさんがぼくのためについてくれたやさしいうそだとおもいます。このことばをどうができくと、おとうさんにあってみたくてすこしかなしいきもちになります。でもかなしいだけじゃなくて、かなしませないようにうそをついてくれたおとうさんのやさしさをおもって「がんばろう！」とおもえます。おとうさんがしんでしまったことはしっているけど、おとうさんのうそがほんとうになって、いつかよるおそくにドアのまえで「ドアをあけて。かえってきたよ。」といっているおとうさんにあいたいです。こうおもえるのも、おとうさんのやさしいうそのおかげです。

ぼくからおとうさんにつたえたいことがあります。

「おとうさん、うそがばれてるよ！　だってまわりにびょういんのどうぐがいっぱいあるし、おとうさんがよこになっているし、めからなみだがちょっとだけでているし、こえがさびしそうだから。」でもぼくは、だまされているふりをしつづけようとおもいます。

おとうさんがやさしいうそをついてくれたおかげで、ぼくのこころはつよくなれています。これからもおとうさんのことばをまもっておかあさんとげんきにすごしたいです。おとうさん、やさしいうそをありがとう。



保護者の皆様方へ
２学期終業式にお話をした内容です。
発達段階に応じて、ご家庭でもお話をしてくださるとありがたいです。
有意義な夏休みを過ごし、
全員が笑顔で２学期の始業式が迎えられますよう、ご協力をお願いいたします。

川口市立戸塚北小学校　校長　櫻井秀子